

第7章 第9期計画の基本理念と体系

1 基本理念

少子高齢化が進行する中、高齢者の価値観や考え方、生活スタイルもますます多様化しています。高齢期を迎えても、豊富な経験や知識、特技等を地域社会に活かすことができる環境づくりとともに、地域ぐるみで互いに助け、支え合い、安心していきいきと暮らせるまちづくりを推進していく必要があります。

また、介護、医療等の支援を必要とする高齢者も年々増加することが予想され、そのような高齢者が可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域共生社会の実現を見据えながら、地域包括ケアシステムの深化・推進を図っていく必要があります。

このような状況を踏まえ、第9期計画においては第8期計画の基本理念を引き継ぐこととし、「住みなれた地域で みんなが支える まちづくり」を基本理念とします。

【基本理念】

住みなれた地域で みんなが支える まちづくり



2 計画の体系

第9期計画の推進に当たっては、基本理念に基づき、次に掲げる5つの基本目標を設定し、目標の達成に向けた施策の推進に努めます。

特に、「基本目標3 認知症施策の推進」においては、第8期計画時の2つの施策を4つの施策に再編します。

■ 第9期計画 基本目標 施策体系

基本目標1 健康づくりと介護予防の推進
施策1 自立支援、重度化防止の推進
施策2 生きがいつくりと社会参加の促進
基本目標2 地域包括ケアシステムの深化・推進
施策1 地域包括支援センターの機能強化
施策2 医療・介護連携の推進
施策3 見守り、支え合う体制の推進
施策4 地域共生社会の実現
基本目標3 認知症施策の推進
施策1 認知症に関する理解促進
施策2 相談支援体制の充実
施策3 医療・介護関係者及び介護者への支援
施策4 権利擁護の推進
基本目標4 介護サービスの基盤整備
施策1 地域密着型サービスの整備
施策2 介護人材確保対策の推進
施策3 介護事業所への災害・感染症対策支援の推進
基本目標5 介護保険事業の安定的な運営
施策1 介護給付の適正化
施策2 適切な介護保険料の設定と収納率の向上

3 日常生活圏域の設定

第9期計画の日常生活圏域の設定に当たっては、これまでに3つの中圏域及び6つの小圏域において積み重ねてきた取組を土台として更なる推進を図ることが重要であると考えます。

第9期計画においても、これまでの3つの中圏域及び6つの小圏域を引き続き日常生活圏域として設定することとし、各圏域ごとの実情に応じた取組を進めていきます。

4 成果指標

基本理念の実現に当たっては、市民、関係機関等がともに目指すまちの姿に向かって、取組を推進することが必要です。

第9期計画では、第8期計画に引き続き、計画期間に目指すまちの姿を分かりやすく示すため、基本目標ごとに成果指標を設定し、P l a n（計画）・D o（実行）・C h e c k（評価）・A c t i o n（改善）のP D C Aサイクルによる検証を行い、有効かつ効率的な事業実施を推進し、その実現に向けた進捗状況を明らかにします。

なお、基本目標1及び基本目標5については、今後、数値の上昇が予想されるため、現状値を目標値としています。

■基本目標1 健康づくりと介護予防の推進

指標名	現状値	目標値
	令和5年	令和8年
要介護3以上の認定者の割合	30.2%	30.2%

■基本目標2 地域包括ケアシステムの深化・推進

指標名	現状値	目標値
	令和5年	令和8年
「大村市は人生の最期を安心して迎えられるまち」と思う人の割合	38.7%	40.0%

■基本目標3 認知症施策の推進

指標名	現状値	目標値
	令和5年	令和8年
認知症に関する相談窓口を知っている人の割合	27.1%	32.5%

■基本目標4 介護サービスの基盤整備

指標名	現状値	目標値
	令和5年	令和8年
地域密着型居宅系及び在宅サービス等の整備状況	31 施設	36 施設

※地域密着型居宅系及び在宅サービス等…定期巡回・随時対応型訪問介護看護、小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護、地域密着型認知症対応型共同生活介護の各施設

■基本目標5 介護保険事業の安定的な運営

指標名	現状値	目標値
	令和5年	令和8年
第1号被保険者1人当たりの給付月額	22 千円	22 千円